

第6章 一体的推進に関する事項

1. 実現に向けた仕組みと環境づくり

活性化の核となる組織をつくる

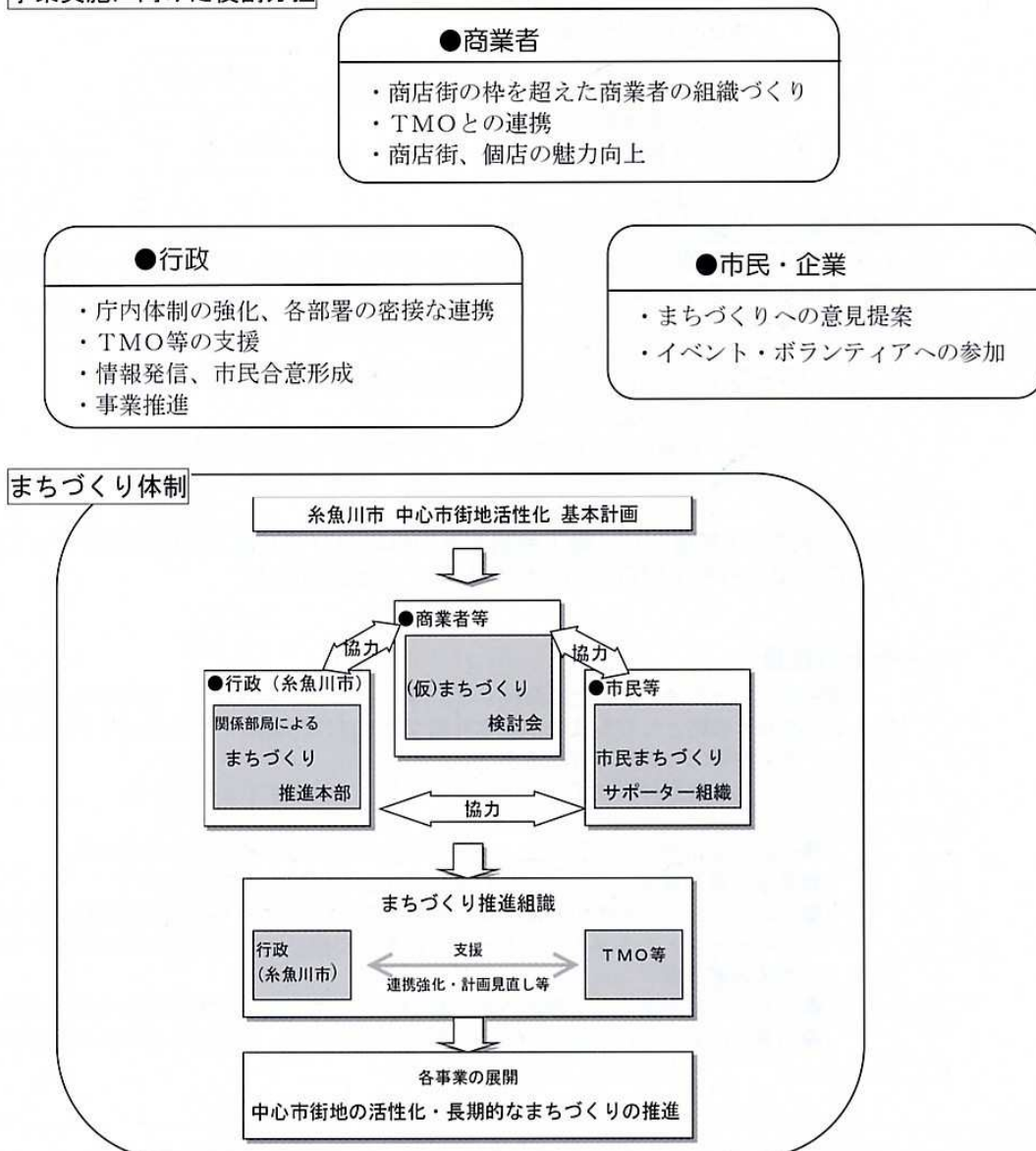
- ①市内部の体制を整える
- ②関係者による協議会をつくり、
 - ・住民・商業者・行政を交えた協議会の設立等、互いの連携を図る。
- ③機動的に動く組織をつくる
 - ・まちづくり会社、TMO等、行政と民間が連携して機動的に動く組織をつくり、具体的事業の合意形成の調整、事業者間の調整、事業の実施などを行う。

中心市街地の活性化を共通の目標とする

- ①まちづくりイメージを共有する。
- ②積極的な情報発信や住民参加を推進する。

2. まちづくり推進体制の検討

事業実施に向けた役割分担



3. TMOの組織と役割について

■ TMOの役割

①街の魅力を活かすマネージメント

- ・幅広い組織の調整の場として機能することが必要

②実効性のある事業の推進

- ・多様な事業の連携を図り、一体的に推進することが必要

③総合的なコンセンサスの形成

- ・幅広い市民の参画を得て、総合的なコンセンサスの形成を図ることが必要

■ TMOの事業内容（一般的に考えられる事業内容）

ソフト系事業	ハード系事業
<ul style="list-style-type: none"> ・全体企画、調整 ・公的空間の管理 ・テナントミックス ・マーケティング戦略 ・個店の経営支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・公的空間の物的整備 ・駐車場の建設、運営、管理 ・大型店の誘致 ・公益的施設の整備、誘致 ・都市開発的事業

■ 必要能力と事業リスク

	TMOに必要な能力			事業リスク
	資金力	専門性	調整力	
ソフト系事業		○	○	小
ハード系事業	○	○	○	大

糸魚川市のTMOのパターン検討

- ・TMOは株式会社であるため、利益の追求が必要であり、組織力に合った事業展開が必要

● TMOの大きなパターン分け

パターン1：事業は行わず、企画調整に徹する。

パターン2：企画調整から事業実施までを行う。

- ①ソフト事業中心に取り組む
- ②ハード事業を主に取り組み、ソフト事業は各商店街にゆだねる。
- ③当初はソフト事業に取り組み、実績、組織の充実を図った後、ハード事業を展開

平成11年度から、商工会議所を中心にコンセンサス形成事業を行っており、この中からもTMOの方向性が出てくると思われる。

4. 今後の課題

糸魚川市中心市街地の活性化に向けては、『軸』と『核』を設定し、これらによる波及効果を狙うことを基本戦略としており、本基本計画では、活性化戦略として5つのポイントの整備のあり方・考え方等についての方向性を示した。

今後は、これら整備に向けて、以下の点に留意して推進する必要がある。

- 行政、商業者等、市民等の、それぞれの推進組織を設立と連携が必要
- 具体的事業推進に向けてTMO構想・TMO計画を策定が必要
- これに先立ち、糸魚川停車場線（整備推進中）・みいちゃん通りの整備、さらには、新たな核・海とのふれあい広場・駅周辺整備に向けた、具体的な手法検討と当面の対策の検討が必要
- また、市民参加による整備内容の検討とともに、市民や地権者の合意形成が必要
- 商業者にあつては、個店レベル、商店街レベルで、できることから取り組む必要